

2025年1月のブルーベリー農園その1

東広島市豊栄町のブルーベリー農園での栽培が今年で25年目を迎える。木の寿命が30年といわれており元気にたくさん収穫できるよ

うに算段するのがこれからの課題。安芸区の自宅から通うのも25年目ということになる。農園のある地域では幸い時雨れる日が結構あり適度に地べたが湿ってくれている。好きな花もあまり咲いていなくて寒々とした農園の景色ではブルーベリーの紅葉だけが派手。

1月3日(金) 今年初めての農園行き。まあ穏やかな一日。墓参りを済ませブルーベリーの見回りをして早めの帰宅



里山の晩生のブルーベリー園。この場所は木枯らしがよく吹くところなので落葉が進んでいた



1月5日(日) 農作業の休憩中にかっかっというジヨビの鳴き声をしたので撮影。大陸からはるばるやってくる渡り鳥で冬の農作業でよく見かける野鳥



1月6日(月) 晩生中心のブルーベリー畑の花芽。ウッダードという品種でまだ葉も紅葉もしないでしっかり枝にしがみついている



1月6日(月) 里山のブルーベリー園の周囲に茂った木がブルーベリーの日差しを遮るので切る作業が続く
①ミカンの剪定用の鋸の刃を新しいに取り替えた。新品はサクサクとよく切れる



電動チェーンソーと鋸を併用してばっさり。この木はエゴノキ



切った木は枝を払い太い幹は 2~2.5m位に切って燃やさずに近くにおいて朽ちるままに任せる



写真右の木が栗（小さい実がなり甘い）は今年を残してその左端のドングリの木の伐採にかかりたいが、ちょっと大きい



昨年初夏に伸びたブルーベリーの枝の先を切って脇から枝が伸びているのを確認。この枝にも花芽がそれ

ぞれついている



ブルーベリー畑

① 寒そうにタンポポの花が咲いている



② 昨秋種をまいたレンゲの葉っぱが伸びてきた



2025年1月8日

社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良

《2024年4月8日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》